

## 「三匹獅子舞」 ふりゆう 風流の獅子舞



▲返田の獅子舞



▲佐原八日市場の獅子

獅子舞といっても、実にさまざまな獅子舞があります。赤い顔をした獅子頭に前足役と後ろ足役の二人立ちのものや、獅子とはいいながら、角を付けた獅子頭を一人で被る一人立ちのものなどです。民俗的には、前者は大陸から渡ってきた伎楽系の二人立ち獅子舞、後者は村などに害をなす災いを祓うために行われた風流系の一人立ち獅子舞とに区別しています。

風流系の獅子舞は「獅子踊」「三匹獅子舞」などと呼ばれ、腹部に取り付けた太鼓を打ちながら舞い、背中には幣束などを付けています。これは、中世末から近世初期にかけて京都を中心に流行した風流踊の一派として成立した原型が、関東地方に伝わったとされるもので、関東・東北地方に広く分布しています。西日本の太鼓踊に獅子の要素が加わったものと考えられています。

市内では、雄二匹、雌一匹の三匹が一組となって舞う

「三匹獅子舞」と呼ばれる型の風流系獅子舞が伝承されています。「多田の獅子舞」「玉造・新寺の獅子舞」「返田の獅子舞」「津宮の獅子舞」「佐原八日市場の獅子」「一ノ分目の獅子」などがそうです。このうち、毎年行われているものは「返田の獅子舞」「佐原八日市場の獅子」「一ノ分目の獅子」です。

「返田の獅子舞」は、11月13日の返田神社例大祭に披露されます。演目には、「足どり」「女獅子」「中獅子」「男獅子」があります。「佐原八日市場の獅子」は7月の祇園祭に、「一ノ分目の獅子」は3月の境宮神社の初午祭に、それぞれ、太鼓や笛で囃しながら氏子地区内を一巡りする道行が行われています。

これら獅子の道行や舞うという行為には、人々を災いから祓い、安らかな生活を願う心が宿っています。

問い合わせ

生涯学習課